「学ぶ，勉強する」という意味の動詞 “学习”と“学”について

小　川　郁　夫

1，序

一般に，「学ぶ，勉強する」という意味で使われる中国語の動詞 “学习” と “学” は同義と考えられている。『现代汉语词典』で “学习” と“学” の 項を見ると，

“学习” —— 从阅读、听讲、研究、实践中获得知识或技能（閲読，聴講，研究，実践の中から知識や技能を獲得すること）

“学” —— 学习

とある[1]。例えば下例の “学习” と “学” は置き換え可能であり，置き換えたことによって意味上の変化は全く生じない。

〔1〕　学习外语（外国語を学ぶ）

〔2〕　学习开车（車の運転を学ぶ）

〔1〕’ 学外语（〔1〕に同じ）

〔2〕’ 学开车（〔2〕に同じ）

しかし，次例〔3〕における “学习” は “学” に置き換えることができない。（＊は不成立を表わす）

〔3〕　你在哪个大学学习？（あなたはどこの大学で学んでいますか）

〔3〕’ ＊你在哪个大学学？

また，次例〔4〕における “学” は “学习” に置き換えることができない。

〔4〕　学医救国（医学を学んで国を救う）

〔4〕’　＊学习医救国

筆者の調べたところでは，“学习”と“学”の語義的相異について扱ったものとしてはわずかに後述の张瓌一1953があるくらいであり，上例〔3〕〔4〕のように“学习”と“学”が置き換え不可能な場合があることについては文法的に論及されたことがこれまで全くない(2)。

また『汉语常用动词搭配词典』では“学习”と“学”を同義としたうえで，“学习”と“学”が賓語を取る場合，補語を取る場合，状語を取る場合の 3 通りに分けて例文を挙げているが，“学习”が補語を取る場合に関しては，「自分ならば“学习”を使わずに“学”を使う」と指摘したインフォーマントも存在する。

本稿では，これらの問題の検討を通して，動詞“学习”と“学”の文法的性質について考察していく。

2．“学习”が“学”に置き換え不可能な場合

〔5〕　你在哪个大学学习？（あなたはどこの大学で学んでいますか）

〔6〕　他真是个书呆子，整天学习。（彼は本当に本の虫で，1日じゅう勉強している）

〔7〕　他喜欢学习。（彼は勉強好きだ）

〔5〕’　＊你在哪个大学学？

〔6〕’　＊他真是个书呆子，整天学。

〔7〕’　＊他喜欢学。

これらの“学习”はすべて動詞“念书”または“读书”に置き換えることができる。また，置き換えたことによって文の内容に変化は生じない。

〔8〕　你在哪个大学念书［读书］？（〔5〕に同じ）

〔9〕　他真是个书呆子，整天念书［读书］。（〔6〕に同じ）

〔10〕　他喜欢念书［读书］。（〔7〕に同じ）

“念书”“读书”は，

念〔读〕(読む) ＋ 书(本を)

のように「動詞＋賓語」という語構成からなる動詞であるが，1語としては「(実際に) 本を読む」という具体的な意味で使われることは少なく，一般には「学ぶ，勉強する」という抽象化された意味で使われる。

これに似た動詞としては他にも，

吃饭 (煮た米を食べる──→食事する)

说话 (言葉を話す──→話す)

走路 (道を歩く──→歩く)

睡觉 (眠りを眠る──→眠る)

などを挙げることができる(3)。このような動詞中の賓語を，A．A．ドラグゥノーフ1952は「空洞賓語」と呼び(4)，C．E．ヤーホントフ1957は「虚目的語」と呼んでいる(5)。また，V．M．ソーンツェフ1957にも次のような記述がある(6)。

> このような動詞は，その構造を見ると，動詞──目的語関係にある動詞的語幹と名詞的語幹からなる。(中略) これらの動詞の名詞的語幹は，それらが独立した意味をもっていないのでしばしば「空虚な」あるいは「一般的」目的語と名づけられる。すなわち＜念书＞という語の成員として＜书＞は＜本＞を意味しておらず，＜吃饭＞中の＜饭＞は＜煮た米＞を意味しない。

これに一言付け加えるならば，“念书”と“吃饭”にはさらに違いがある。“吃饭”の「動詞的語幹」“吃”は「食べる」という動詞本来の意味を完全に残しているが，“念书”の「動詞的語幹」“念”は「読む」という動詞本来の意味をかなり失ってしまっている(7)。“读书”の「動詞的語幹」“读”もまた同様である。書物を読んで学ぶことも“念书”“读书”と言うが，実際に本を読まなくても，学校などで学ぶことも“念书”“读书”と言うのである。

そして“念书”“读书”という動詞は「何を学ぶのか」という学ぶ対象を要求しない。これはこの2つの動詞が既に「動詞＋賓語」という語構成であるために，さらに賓語を取ることができないという統語論的制約による(8)。

つまり“念书”“读书”は1つの動詞としては不及物動詞なのである[9]。従って“念书”“读书”と置き換え可能な上例〔5〕〔6〕〔7〕の“学习”も不及物動詞と考えるべきである。

〔5〕　你在哪个大学学习？（あなたはどこの大学で学んでいますか）

は突き詰めて言えば，

〔11〕　你是哪个大学的学生？（あなたはどこの大学の学生ですか）

ということであり，「何を学んでいるか」ということは全く問題とされていない。また，

〔6〕　他真是个书呆子，整天学习。（彼は本当に本の虫で，1日じゅう勉強している）

〔7〕　他喜欢学习。（彼は勉強好きだ）

においても「何を勉強するのか」ということは問題とならない。これらの“学习”はすべて不及物動詞である。以下の2例においても同様である。

〔12〕　同学们每天一起学习。（学生たちは毎日一緒に勉強する）

〔13〕　他们工作，我们学习。（彼らは働き，私たちは学ぶ）

〔12〕'　＊同学们每天一起学。

〔13〕'　＊他们工作，我们学。

そして，これらの“学习”を“学”に置き換えることができないということは，“学”には不及物動詞としての機能がないということを意味する。下の例のように“学”は必ず賓語を要求する。つまり“学”は及物動詞である。

〔14〕　你在哪个大学学汉语？（あなたはどこの大学で中国語を学んでいますか）

〔15〕　他整天学英语。（彼は1日じゅう英語を勉強している）

〔16〕　他喜欢学什么？（彼は何の勉強が好きですか）

時として“学”の賓語が表面に現われない場合もある。

〔17〕　我也想学。（私も学びたい）

〔18〕　你为什么不学呢？（あなたはどうして学ばないのですか）

〔19〕　你在哪儿学的？（あなたはどこで学んだのですか）

〔20〕　你学过吧？（あなたは学んだことがあるのでしょう？）

しかし，これらの文には必ず何らかの前提があり，例えば次のような発話の中で初めて安定したものとなる。

〔17〕' 同学们都学日语，我也想学。（同級生たちが皆日本語を学んでいるので，私も学びたい）

〔18〕' 数学这么有意思，你为什么不学呢？（数学はこんなにおもしろいのに，あなたはどうして学ばないのですか）

〔19〕' 你的汉语很好，你在哪儿学的？（あなたの中国語はすばらしい，あなたはどこで学んだのですか）

〔20〕' 大家都说你没学过英语，我不相信，你学过吧？（みんながあなたは英語を学んだことがないと言っているけれど，私は信じません，あなたは学んだことがあるのでしょう？）

これらの例における後半（〔20〕'は最後）の節中の“学”はすべて表面上は賓語を取っていないが，話者の意識の中ではそれぞれ前提の中にある“日语”“数学”“汉语”“英语”が賓語として指向されている。これらの“学”は及物動詞と考えるべきである。

“学习”が不及物動詞としての用法を持ち，“学”が不及物動詞としての用法を持たないことについて見てきたが，もちろん“学习”に及物動詞としての用法がないわけではない。“学习”と“学”が置き換え可能な場合は極めて多い。

〔21〕　我要好好儿学习中文。（私は一生懸命中国語を学ばなければならない）

〔21〕' 我要好好儿学中文。（同上）

〔22〕　你喜欢学习中文吗？（あなたは中国語の勉強が好きですか）

〔22〕' 你喜欢学中文吗？（同上）

〔21〕〔22〕の“学习”は及物動詞として使われており，賓語“中文”を取っている。

以上のことをまとめると，“学习”は及物動詞としての用法と不及物動詞としての用法の両方を持ち，“学”は及物動詞としての用法しか持たないということになる。“学习”と“学”が，置き換え不可能な場合があるにもかかわらず一般に同義と考えられがちなのは，及物動詞として使われる場合にしか注目していないからである。

3．「概括」と「具体」

张瓌一1953では“学习”と“学”を同義語とした上で，

学习（概括）——学（具体）

という意味上の区別をしている(10)。同書ではこのことについて特に詳しい説明を加えていないが，その他の例

树木（概括）——树（具体）

については，「“树木”は木本植物すべてを指し，“树”は一本一本の具体的な木を指す」という説明がなされている。これを“学习”と“学”に当てはめると，“学习”は学ぶことの総称であり，“学”は中国語を学ぶとか，車の運転を学ぶといった具体的なことを指すように思われる。

確かに前章で挙げた例文〔5〕〔6〕〔7〕〔12〕〔13〕など，“学习”が不及物動詞として使われている場合——すなわち“学习”が“学”に置き換え不可能で，“念书”“读书”に置き換え可能な場合——には，“学习”は「概括」的であると言えよう。また“学”は及物動詞であり，必ず賓語を要求するので「具体」的だと考えることにも問題はなさそうである。

しかし，既に述べたように“学习”は及物・不及物両方の用法を持つ。“学习”が及物動詞として使われた場合，例えば前章の例文〔21〕〔22〕中の“学习中文”と〔21〕’〔22〕’中の“学中文”との間には意味上の差異は見出し難く，どちらも「具体」的である。“学习”が「概括」的なのは不及物動詞として使われている場合だけであり，张1953のような区別は必ずしも妥当ではない。

4. “学”が“学习”に置き換え不可能な場合

次の2例の“学”は“学习”に置き換えることができない。

〔23〕　学医救国（医学を学んで国を救う）

〔24〕　勤工俭学（励んで仕事をしながら節約して学ぶ）

〔23〕’　＊学习医救国

〔24〕’　＊勤工俭学习

ここで置き換えることができないと言っているのは〔23〕〔24〕が四字熟語のような形になっているという修辞的な理由によるものではない。“学医”“俭学”の部分だけを取り出しても“学”を“学习”に置き換えることができないのである。

“学医”“俭学”の“学”はもちろん単独で使うことができるが，“医”と“俭”はどちらも1つの語として単独で使うことはできない。つまり“医”と“俭”は語素である。従って“学医”“俭学”は2語ではなく1語であり，“学”もこれらの語を構成する語素にすぎないと考えざるをえない。

“学医”は「医学を学ぶ」という意味で，「動詞＋賓語」構造からなり一見すると2語のように思われるかもしれないが，構詞法的に見た場合，“医”が単独では用いられない，すなわち語素であるという点が重要である。“医学”でなければ単独で用いることはできないのである。例えば“回家”(家に帰る)は2語であるが，“回国”（帰国する）は1語である。何故なら“回家”の“回”と“家”はどちらも1つの語として単独で使うことができるが，“回国”の“国”は単独で使うことができない，すなわち語素であるからである[11]。従って，“回国”の“回”は，1語としての性質を持っているものの“回国”と言った場合にはこの語を構成する語素にすぎないのである。“学医”と同様の例としては他に“学理”（理科系を学ぶ）“学农”（農業を学ぶ）などがある。

“俭学”は「状語＋動詞」という偏正構造からなる。これと同様の例とし

ては他に“易学”（学びやすい）がある。“易学”の“易”も1つの語として単独で使うことはできない，すなわち語素である。従って“学”も語素である。

〔25〕　容易学（学びやすい）

は“易学”とほぼ同じ意味であるが2語である。何故なら“容易”は1つの語として単独で使うことができるからである。従って“容易学”の“学”は“学习”に置き換えることができる。

〔25〕'　容易学习

ここで言う語素“学”とは1つの単語“学习”や“自学”などを構成する語素“学”を指すのではない(12)。語としての性質を持ちながら，もう一方の語構成成分が語素であるがために自らも語素の地位に留どまらざるをえない語素を指しているのである。

〔23〕の“学”は賓語“医”を取っているから及物動詞として機能していることがわかるが，〔24〕“俭学”の“学”は，

〔24〕"　＊俭学英语

のように賓語を取ることはできない。従って，“俭学”の“学”は及物動詞としての機能を持っていないことがわかる。これは第2章で考察した結果に反する。しかし，この“学”は1語として機能しているのではなく，語素である。語素であるために動詞本来の機能を発揮できないと考えるべきであろう。結局〔23〕〔24〕の“学”を“学习”に置き換えることができないのは構詞法上の制約によるものである。

5．修辞上の問題について

马松亭1981では“学习”と“学”を同義語としながら，次例の“学”を“学习”に置き換えられないのは修辞上の問題であるとしている(13)。

〔26〕　见困难就上，见荣誉就让，见先进就学，见后进就帮。（困難を見れば出向いて行き，栄誉を見れば譲り，進んだものを見れば学び，

遅れたものを見れば助ける）

これは4つの節をすべて「“见”＋賓語＋“就”＋単音節動詞」という形にした修辞的な工夫の結果である。

もちろん“学”の含まれた節を取り出して1つの文にすれば，その“学”を“学习”に置き換えることは可能である。

〔27〕见先进就学习。（進んだものを見れば学ぶ）

〔26〕〔27〕の“学”“学习”は，表面上は賓語を取っていないが，話者の意識の中では“先进”が賓語として指向されているので及物動詞である。

次の2例においても〔26〕と同様，修辞上の理由により“学习”を“学”に置き換えることができない。

〔28〕　人人都应该严肃认真地学习和运用祖国的语言。（人々は皆厳粛に真面目に祖国の言語を学び運用しなければならない）

〔29〕　我们应该努力学习和推广普通话。（私たちは努力して普通話を学び押し広めなければならない）

〔28〕〔29〕では述語動詞を「2音節動詞＋“和”＋2音節動詞」という形にするため“学习”を用いているのである。

このような修辞上の問題が発生するのは主に書面語においてである。

6．補語の付加について

以下では“学习”“学”が補語などの付加成分を取る場合について考察していく。

『汉语常用动词搭配词典』では“学习”が取る補語を結果補語，方向補語，程度補語，可能補語に分けて多くの例を挙げているが[14]，これらの例については，序でも述べたように「自分ならば“学习”を使わずに“学”を使う」と指摘したインフォーマントも存在する。そこで本稿では“学习”と“学”が補語を取る場合の実際の使用頻度を調べてみた[15]。調査に用いたのは『语文学习讲座丛书（一）语文学习的基础』と同（二）『阅读与写作』（中

华函授学校编，商务印书馆1984）である。調査対象として同書を選んだのは，この種の学習参考書には“学习”“学”という語がよく用いられているからである。

調査の結果は下表の通りである。(数字は用例数を表す)

	学习	学
結果補語	0	76
方向補語	1	7
程度補語	2	3
可能補語	0	8
合計	3	94

それぞれの内訳は，

結果補語：“学好”35例，“学会”27例，“学到”12例，“学坏”1例，“学得”1例。

方向補語：“学习起来”1例，“学起来”4例，“学来”3例。

程度補語：“学习得好”2例，“学得好不好”1例，“学得好”2例。

可能補語：“学不好”3例，“学不来”2例，“学不到”1例，“学得来”1例，“学不周全”1例。

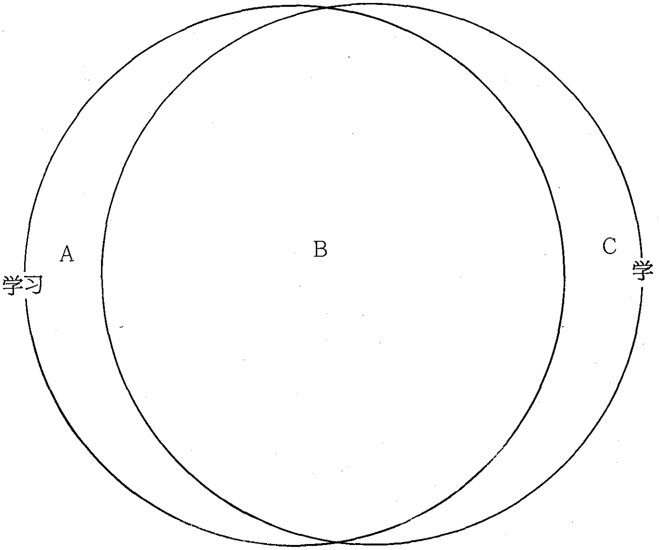
方向補語，程度補語，可能補語の用例は余り多くなかったが，全体として“学习”には補語が付加しにくいと言えよう[10]。

また，動詞接尾語“了”“着”“过”の付加についても調べてみたが，“学了”9例，“学着”3例，“学过”8例に対し，“学习”は“学习了”が1例あるだけであった。これも用例は余り多くなかったが，やはり“学习”には接尾語も付加しにくいと言えるのではないか。

結局，“学习”の後に補語，動詞接尾語などの付加した形は文法的に誤りとは言えないが，余り慣用的ではないのであろう。

7．まとめ

以上述べてきたことを図にまとめると次のようになる。



A：不及物動詞として用いられる。

B：及物動詞として用いられる。

C：語素として用いられる。

一般に“学习”と“学”が同義と思われがちなのは，Bの部分が最も大きく，Cの部分が語素として用いられる場合に限られるからである。つまり，1語として使われる“学习”と“学”は「A＋B」の部分だけであり，その大部分をB，すなわち“学习”と“学”が置き換え可能な場合が占めているのである。

また，“学”に比べて“学习”は補語などの付加成分を余り取らないことも第6章の調査からわかった。

第2章で挙げた「動詞＋（いわゆる）虚賓語」という語構成からなる動詞には「虚賓語」の部分を取り除くと，

念书（学ぶ）——念（読む）

读书（学ぶ）——读（読む）

吃饭（食事する）——吃（食べる）

のように意味の変わるものと

说话（話す）——说（話す）

走路（歩く）——走（歩く）

睡觉（眠る）——睡（眠る）

のように余り意味の変わらないものがある。前者の3つには，

念书（不及物）——念（及物）

读书（不及物）——读（及物）

吃饭（不及物）——吃（及物）

という関係の他，张瓌一1953の言う「概括」——「具体」という関係も存在するようである。

念书（概括）——念（具体）

读书（概括）——读（具体）

吃饭（概括）——吃（具体）

何故なら，及物動詞は必ず賓語を要求するので「具体」的にならざるをえないからである。第3章で述べたように，张1953の言う「概括」——「具体」は“学习”と“学”では必ずしも当てはまらないが，これらではよく当てはまる。

後者の“说话”——“说”は上の3例と同様，

说话（不及物，概括）——说（及物，具体）

となると考えられるが，“走路”——“走”“睡觉”——“睡”はどうであろうか。意味的に考えた場合，“走路”“走”“睡觉”“睡”すべて不及物動詞的であり，かつ「概括」的であるように思われる。例えば，次の例がそれである。

〔30〕　我的孩子还不会走路。(私の子供はまだ歩けない)

〔31〕　我的孩子还不会走。(同上)

〔32〕　我想睡觉。(私は眠りたい)

〔33〕　我想睡。(同上)

しかし,

〔34〕　你应该走人行道。(あなたは歩道を歩かなければならない)

のように，賓語“人行道”を取る及物動詞的でかつ「具体」的な“走”も存在する。朱德熙1982は,

〔35〕　走了一天（一日じゅう歩く）

〔36〕　休息半个钟头（30分休憩する）

の“一天”“半个钟头”なども準賓語としているが(17)，ある動詞が賓語を取っているからといって即座にその動詞を及物動詞であると決められるのかどうか。このような問題については「概括」——「具体」という概念も考慮しつつ今後の研究課題としたい。

注

(1)　“学”には「学ぶ，勉強する」以外の意味もある。『现代汉语词典』で“学”の項を見ると，①学习，②模仿，③学问，④指学科，⑤学校とあるが，本稿で扱うのは①の場合だけである。

(2)　修辞上の問題として簡単に論じたものとしては後述の马松亭1981がある。第5章参照。

(3)　吕叔湘1979ではこれらの語について，語彙としては1語であるが，文法上はフレーズ（原文“短语”）であるとしている。(25頁及び30—31頁)

(4)　『中国语文』1953年7月号，38頁。また，ドラグゥノーフが王力1957に寄せた注では「虚賓語」となっている。王力1957，24頁。

(5)　『中国語動詞の研究』64—67頁。また，橋本萬太郎1981，53—57頁参照。

(6)　『中国語学』138号，1964年2月，20頁。

(7) ソーンツェフ1957の引用文の省略部分に，“吃饭”“念书”が“吃了饭”（ご飯を食べた）“念了三年的中国书”（３年間中国語を学んだ）のように分離した場合，動詞的語幹が動詞としての性質を回復するという内容の記述がある（既にソーンツェフ1956，95頁の注にほぼ同内容の指摘がある）が，本稿で述べたような動詞の本来の意味の残存性については言及されていない。

(8) “念书”“读书”は絶対に賓語を取ることはできないが，“起草文件”（文書を起草する）や“留心火车”（汽車に注意する）のように賓語を取ることのできる「動詞＋賓語」構造の動詞も存在する。

(9) 王学作1988では“动宾结构离合动词的不及物性”と呼んでいる。

(10) 34頁。

(11) 中国語で「国」を表わす場合には“国家”と言う。従って〔23〕中の“救国”も１語である。

(12) もちろん“大学”“学问”などを構成する名詞的な語素“学”を指すのでもない。

(13) 171—172頁。

(14) 同書では時間詞や量詞も補語として扱っているが，本稿ではこれらを調査の対象とはしなかった。

(15) “学习”は名詞として使われる場合もある。例えば“语文学习”の“学习”など。本稿で調査したのは補語を取る場合であるから，間違いなく動詞である。

(16) 『动词用法词典』では“学习”が補語を取る用例数が“学”の場合に比べて極めて少なくなっている。この点，『动词用法词典』は実際的であると言えるかもしれない。

(17) 116頁。

参考文献

『现代汉语词典』，商务印书馆1978。

『汉语常用动词搭配词典』，王砚农・焦庞颙编著，外语教学与研究出版社1984。

吕叔湘1979『汉语语法分析问题』，商务印书馆。

A. A. ドラグゥノーフ1952『现代汉语语法研究』,『中国语文』1955年7月号,邵荣芬・郑祖庆译, 吕叔湘校による。

王力1957王了一著, 龙果夫教授序注『汉语语法纲要』, 上海教育出版社。

C. E. ヤーホントフ1957『中国語動詞の研究』, 橋本萬太郎訳, 白帝社 1987年による。

橋本萬太郎1981『現代博言学』, 大修館書店。

V. M. ソーンツェフ1957『現代中国語概論(中国語研究入門)』,『中国語学』138号, 1964年2月, 望月八十吉訳による。

V. M. ソーンツェフ1956「汉语的词类问题」,『语法论集』第二集, 中国语文杂志社编, 中华书局出版1957, 戚雨村・吴在扬译による。

王学作1988「动宾结构离合动词浅析」,『世界汉语教学』第3期, 147—149頁。

张瓌一1953『修辞概要』, 中国青年出版社。

马松亭1981『汉语语法修辞』, 山东人民出版社。

『动词用法词典』, 孟琮・郑怀德・孟庆海・蔡文兰编, 上海辞书出版社1987。

朱德熙1982『语法讲义』, 商务印书馆。